令和４年度第１回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会
の開催結果について（概要）

第１回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

１　日程及び場所

令和４年６月27日（月）
近畿中国森林管理局　大会議室Ｂ（対面Ｗｅｂ併用形式にて開催）

２　議題

（１）近畿中国局管内の木材需給動向について
（２）国有林材供給調整の必要性について
（３）その他

３　議事概要

《検討結果》

国産丸太は、ウッドショックの混乱も一巡し、価格は安定してきた。製材工場等の製品在庫量の確保に加え、虫害等による品質の低下が懸念される時期に入ったことにより、需要も落ち着き始めている。スギの価格は輸入材の代替需要により堅調に推移しているが、ヒノキの価格は４ｍ材で下落傾向に転じている。

輸入木材は、インフレや為替が急激に円安へ振れたことで、一段高が懸念され、輸入コスト高と相まって、先行きの入荷への不安があると見られる。また、原油高は継続する見通しであり、ウクライナ情勢の長期化傾向や、円安動向への不安等から、先行きの価格動向は不透明さを増している。

木材価格の先行き不安と共に、住宅関連では原油価格等の高騰に起因する製品資材価格の上昇により、住宅建築費に対する割高感が見られ、一部では新築を先送りするなど、見通しへの不安は募っている。

以上のことから、地域での樹種や用途等の需要の動向、民有林材の供給状況、木材の輸出入状況、新設住宅着工戸数等について注視することが必要であり、引き続き情報収集・分析を行いながら、素材生産事業や立木販売を推進し、国有林からの素材並びに立木の安定供給・販売に努める。

〈主な情報、意見等について〉

〇木材の需給動向について

・和歌山県内の原木市場では、スギ、ヒノキの出材量は例年並みだが、製材工場では原木確保も進み、価格は徐々に下落している。（小川委員）

・岡山県内の原木市場では、スギ、ヒノキの出材量は昨年同期に比べ増加傾向にあり、意欲的な出材が続いている。スギの価格は依然としてコロナ前より高値が続いており、ヒノキの価格もコロナ前より高値で下げ止まっている。ヒノキ合板用材の需要は旺盛だったが、合板工場の在庫量が増え、下落に転じている。（石原委員）

・岡山県新見市内の原木市場では、５月末辺りからスギの出材量が増え、供給過剰となり、価格が抑えられていることから、次回の市売を取り止める動きも出ている。ヒノキの平均価格も17,000円まで下落し、コロナ前の価格と比較しても、1,000～2,000円高と価格差が小さくなっている。（戸川委員）

・和歌山県内のプレカット工場では、合板の入荷がしづらい状況が続いているが、プレカット工場が原木を調達し、合板工場に納品を依頼する取組等により、何とか入荷できており、稼働率は例年並みとなっている。ただし、住宅価格の上昇による受注量の減少や住宅設備の不足からやや稼働率を落としている工場もある。また、米材や欧州材等の輸入木材不足はほぼ解消されている。（小川委員、三栖委員）

・合板業界では、ロシアから中間製品である単板が輸入禁止となった影響で、月２万㎥の単板が入らなくなった。合板メーカーとしては国産材のスギやカラマツで代替していく動きにあるが、国産材で単板を生産する必要があり、生産工程が増加するため、生産量は１～２割落ちることから合板の供給不足は続くと考えられる。（三栖委員、内藤委員）

・奈良県内の原木市場では、並材価格が比較的安定していることから、スギ、ヒノキの出材量は例年に比べ減少幅は小さくなっている。スギの価格は６月に入り落ち着いてきている。ヒノキの価格は下落傾向にある。（西垣委員）

・和歌山県内では、木質バイオマス発電所が２基稼働しており、残り２基の発電所も年内での稼働予定としている。ウッドショックにより、燃料用材と競合するＣ材の需要も伸びていることから、燃料用材の集荷に苦戦している。（小川委員）

・岡山県内では、ＦＩＴ認定を受けている木質バイオマス発電所が６基稼働しており、木材需要に占める燃料用材の割合が増加している。また、ＦＩＴ認定を受けて今後稼働を予定している発電所が４基あり、いずれも未利用材を使用する計画であることから、さらに燃料用材の需要が増加していくことが予想される。（石原委員）

・大阪府内の製品市場では、５月の売上額は前年同期比26%増で、15ヵ月連続の増加となった一方で、販売量は前年同期比14%減で、11ヵ月連続の減少となった。（西垣委員）

・岡山県内の製材工場では、韓国・中国向けの輸出に関して、数量も製品単価も変わりはない。（難波委員）

〇今後の見通し

・奈良県内の原木市場では、災害が心配される時期に入ったことから、本格的な出材は９月以降になると見ている。（西垣委員）

・産地価格の高騰、為替相場が円安に振れていること、バンカーオイルの高騰等、輸入コストの上昇が続いていることから、今後、第３四半期にかけて、米マツ製品の輸入価格は上昇すると見ている。（荻原委員）

・大阪府内の製品市場では、今後も低調な荷動きが続くと見られ、スギの価格はロシアアカマツの代替品として引き合いがあり強含みだが、ヒノキは弱含みが続く見通しとなっている。（西垣委員）

〇その他

・国産材の製材工場は、一般的に乾燥能力が低く、生産工程におけるボトルネックとなっていることから、外材から国産材への代替需要はあっても、生産量を増加することができないため、国産材一本で生産することは難しい状況にある。（荻原委員）

・急激な円安に伴う物価高、機械の入荷抜け状態が続いている。具体的には、素材生産現場で使用するワイヤーロープ１ｍあたり280円だったものが、現在、420円と1.5倍の価格になっている。また、チェンソーや付随する部品の在庫がなく、注文から４ヵ月経った今も入荷時期は未定であり、事業の継続に不安定が生じている。（戸川委員）

・鳥取県内の合板工場において、６月19日に火災が発生した影響により、原木の荷受けが停止し、長期の納入停止が懸念されたが、来月から受け入れが再開されることとなった。当該工場で生産される主な製品は外材を使用した長尺合板であるため、国産材市況に大きな影響はないと考えられる。問題は情報の誤解等から木材市況が下落することである。（戸川委員、八木委員）

・国内における針葉樹合板の供給不足が続く中、中国製合板の輸入量が非常に増加している。中国はロシアから輸入した単板を加工し、合板を輸出しているが、中国は日本からスギも輸入しており、ロシア製単板の間にスギを入れて合板を生産すると、日本の合板メーカーと同じ仕様となる。これを中国製合板として日本に逆輸入されることを危惧している。そうなれば、情報を持たない消費者を裏切ることにならないか懸念している。（内藤委員）

令和４年度
第１回　近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会
出　席　者　名　簿

委　員

氏　　名	所　　属　　等	備考
松下　幸司	京都大学　教授	
小川　泰典	和歌山県農林水産部森林・林業局　林業振興課長	
石原　匡師	岡山県農林水産部　林政課長	WEB出席
戸川　睦徳	株式会社戸川木材　代表取締役	WEB出席
八木　数也	株式会社八木木材　取締役	
三栖　基史	株式会社山長商店　常務取締役	WEB出席
荻原　直樹	中国木材株式会社山林事業部　副本部長	WEB出席
内藤　和行	林ベニヤ産業株式会社　代表取締役社長	
難波　芳英	江与味製材株式会社　代表取締役会長	
西垣　泰幸	西垣林業株式会社　代表取締役会長	

森林管理局

氏　　名	役　　職　　等	備考
中村　道人	次　長	
清水　隆典	森林整備部長	
西村　敏行	資源活用課長	
野村　昭二	企画官（間伐推進）	
柴田　章治	企画係長	
石田　英夫	行政専門員	